

ふくしま

第 113 号

平成 29 年 6 月 1 日 発行

議会だより

発行：福島町議会

TEL 0139-47-2215

(題字:高齢者学級受講者 三岳2 土門 孝夫 さん)



■ 定例会 3 月会議	P 2
■ 議会費の使い道	P 4
■ 各議案の審議結果	P 5
■ 一般質問	P 7
■ 予算審査特別委員会	P 9
■ 委員会の調査報告	P 16

■ 町民と議員との懇談会	P 21
■ 議会評価	P 22
■ 議員活動の自己評価	P 24
■ 議員活動の目標	P 28
■ 会議等出席状況	P 30
■ 町民の声	P 32

殿様街道に集う
写真提供：福島フォトサークル

定例会3月会議

新年度予算に伴う条例改正案1件は一部修正

平成28年度定例会3月会議は3月10日に開会し、17日に閉会しました。会議では、条例の制定・一部改正、計画の変更、各会計の新年度予算など町長提出の29件、議会提出の条例の一部改正など2件の計31件を審議し、予算審査特別委員会の報告を受け、1件は一部修正のうえ可決し、他の案件については原案どおり可決しました。

また、10日の夜間議会では、4名の議員が一般質問を行い、町の対応や考え方をいただきました。会期中の参画者は延べ8名でした。

平成29年度一般会計など6会計の予算案と関連議案13件、計19議案を「予算審査特別委員会（3月10日設置）」（平野隆雄委員長ほか議長を除く全議員で構成）に付託し、13日から16日までの4日間慎重に審議しました。

審議した19件のうち、「第2次福島町まちづくり行財政推進プランの変更に伴う関係条例の整理について」は「福島町民プール条例の一部改正」に係る部分を削除して修正すべきものとし、その他18件については、いずれも原案どおり可決すべきものとなりました。

予算審査特別委員会の主な質疑・意見交換の内容は9頁から17頁に掲載しています。

また、平成28年度当初予算との比較は、下表のとおりです。新年度予算の主要事業については次ページに掲載しました。

なお、本会議で報告された付託案件は、報告どおり決定されました。

全会計の予算状況

単位：千円

会 計 名	平成29年度	平成28年度	増 額
一 般 会 計	3,619,984	3,644,234	△24,250
国民健康保険	942,933	993,569	△50,636
介 護 保 険	615,481	602,681	12,800
後期高齢者	62,450	61,787	663
浄化槽整備	35,872	50,789	△14,917
水道事業	148,139	212,370	△64,231
計	5,424,859	5,565,430	△140,571

平成28年度

新年度予算主要事業

● 防犯灯LED化照明導入 促進事業

2万円

町内会が管理する防犯灯730基のLED化を行い、省エネルギー化・町内会の電気料金の負担軽減を図る。

なお、平成29年度は備荒資金利子分の2万円のみ予算計上。

※平成30年度は町管理分175基のLED化を実施予定。

● がんばる地元企業等応援 事業

5,000万円

町内中小企業の設備投資や雇用のうち、一定の基準を満たす者に対し助成。

① 施設投資助成金

② 雇用奨励助成金

③ 特別雇用奨励助成金

④ 外国人技能実習生受入助成金

※時限措置ではなく、常設型補助金として平成29年度から年5千万円を予算化。

● 伊能忠敬記念公園整備事業

300万円

日本全国を測量し、初めて精緻な日本地図を作製した伊能忠敬の蝦夷地測量が当町吉岡から開始された歴史的事実を後世に伝えるため、記念碑を建立し公園を整備する。平成29年度は設計業務費を予算計上。

※平成30年度に整備事業費4千万円を計画。

● 横綱記念館20周年記念事業

200万円

二人の大横綱を輩出した町として、平成9年に設置した横綱記念館が開館20周年を迎えることを記念し、記念講演の実施や無料ちゃんこ鍋の提供などを行う。

● 町道蝦夷ヶ沢線整備事業

250万円

幅員が狭く急勾配で、町道館崎線との取り付け部分も不良となっており、冬季の灯油

補給車両や汲み取り車両等の通行が困難となっていることから、幅員拡幅・急勾配解消等の改良事業を行う。

平成29年度は測量設計調査費を予算計上

※平成30年度に整備事業費3千万円を計画（LⅡ80m、WⅡ4m）

● 町営住宅建替事業

200万円

町営住宅の老朽化が進んでいることから、建替事業を実施。

平成29年度は基本設計・地質調査・実施設計費を予算計上。

※次年度からの計画

① 平成30年度8戸建設

② 平成31年度8戸建設

③ 平成32～35年度24戸建設、50戸解体

議会関係の条例改正

■福島町議会基本条例に関する諮問会議条例の一部改正

【改正理由】

町ではこれまで、各種委員の報酬等については財政健全化計画等により削減しておりましたが、渡島管内の状況を考慮したうえで、平成29年4月から独自削減前の水準に戻すこととしたことから、諮問会議委員の報酬についても同様に改正を行いました。

改正内容は、報酬、旅費日当及び宿泊料を各種委員と同額としました。

報酬を日額5千円、旅費日当2千円、甲地方（東京近郊）の宿泊料を現行の1万1千8百円を1万4千8百円に、乙地方（甲地方以外）は、現行の宿泊料（1万1千8百円）としました。

平成29年度 議会費の使い道 総額115万9千円の増額

単位：千円

区 分	29年度	28年度	増 減	概 要
報 酬	24,531	22,809	1,722	議員歳費 24,456、諮問会議委員報酬 75
手 当 等	10,078	8,072	2,006	議員期末手当
共 済 費	9,767	9,595	172	議員共済等負担金 9,202、社会保険料等 543
賃 金	1,977	1,955	22	臨時職員賃金（会議録作成）
報 償 費	100	100	0	専門的知見謝金（審査・調査）
旅 費	1,810	1,844	△34	普通旅費 730、視察研修旅費 673、職員旅費 160 同行旅費 134、委員費用弁償 12、委員旅費 101
交 際 費	200	150	50	議会としての慶弔費など
需 用 費	1,004	993	11	議会だより印刷製本費 675、消耗品費等 329
使用料及び 賃 借 料	162	162	0	議会ホームページ単独運用（使用料）40 インターネット中継回線利用料等 122
負担金・補助 及び交付金	1,724	1,725	△1	管内議長会等 370、四町議員協議会 85 議員公務災害補償組合 69、政務活動費 1,200
償還金・利子 及び割引料	4,337	1,126	3,211	備荒資金組合への償還金 （議会中継システム更新 1,108、音響等設備更新 3,229）
合 計	55,690	48,531	7,159	

平成29年度版 議会白書 が完成！

1年間の活動内容を 1冊にまとめました！

平成28年度の議会活動をまとめた「平成29年度版議会白書」が完成しました。これまでの議会改革の経緯や、本会議での一般質問の項目、各常任委員会での調査報告等をまとめ、全議員の会議や行事等への参加状況も一目でわかるようになっています。

詳しい内容は、議会ホームページをご覧ください。

○議会ホームページ <http://www.gikai-fukushima-hokkaido.jp/>



各議案の審議結果

- ・賛成が○、反対は×と表示しています。
- ・溝部幸基議長は採決には加わりません。

会議名	議案番号	議案名	議員名	杉村志朗	滝川明子	川村明雄	花田勇	木村隆	平沼昌平	佐藤孝男	熊野茂夫	平野隆雄	審査結果
3月会議		議案第51号に対する修正案		○	○	○	×	×	○	○	×	○	原案可決
	51	第2次福島町まちづくり行財政推進プランの変更に伴う関係条例の整理について		○	○	○	×	×	○	○	×	○	修正可決
	52	福島町製氷貯氷施設条例の制定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	53	福島町個人情報保護条例及び福島町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の適用に関する条例の一部改正について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	54	町税条例の一部改正について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	55	福島町手数料徴収条例の一部改正について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	56	福島町温泉健康保養センター条例の一部改正について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	57	福島町道路占用料等徴収条例の一部改正について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	58	第5次福島町総合計画の変更について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	59	福島町過疎地域自立促進市町村計画の変更について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	60	第2次福島町まちづくり行財政推進プランの変更について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	61	福島町森林整備計画の変更について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	62	平成29年度福島町一般会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	63	平成29年度福島町国民健康保険特別会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	64	平成29年度福島町介護保険特別会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	65	平成29年度福島町後期高齢者医療特別会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	66	平成29年度浄化槽整備特別会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	67	平成29年度福島町水道事業会計予算		○	○	○	○	○	○	○	○	○	

5 福島町議会だより

－ 第113号 平成29年6月1日発行 －

会 議 名	議 案 番 号	議 員 名 議 案 名	杉 村 志 朗	滝 川 明 子	川 村 明 雄	花 田 勇	木 村 隆	平 沼 昌 平	佐 藤 孝 男	熊 野 茂 夫	平 野 隆 雄	審 査 結 果
3 月 会 議	68	福島町財政調整基金の積立金の処分について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 可決
	69	平成28年度福島町一般会計補正予算 （第12号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	70	平成28年度福島町国民健康保険特別会計補正 予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	71	平成28年度福島町介護保険特別会計補正予算 （第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	72	平成28年度福島町後期高齢者医療特別会計補 正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	73	平成28年度福島町浄化槽整備特別会計補正予 算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	74	平成28年度福島町水道事業会計補正予算 （第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	75	公の施設の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	76	平成28年度福島町一般会計補正予算 （第13号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	77	新平和橋架替（その2）工事請負契約の締結に ついて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	同意 4	固定資産評価審査委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 同意
	発委 14	福島町議会基本条例に関する諮問会議条例の一 部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 可決

文書質問

学校の在り方について

質問者：木村 隆 議員

【質問】

- ① 小学校の通学区域については、取扱要項で示されているが、校区外通学許可基準にある住民票のみの移動とは具体的にどういうケースか？
- ② 吉岡小学校の在り方を問うアンケートの対象はどこまでの範囲か？

【回答】

- ① 住居新築などの一時移転を事由とするもので、住民票のみ先に異動し、実際の転居日が違う場合が該当します。
- ② 吉岡地区の0歳児から小学校6年生までの保護者を対象として、3月上旬に実施を予定しています。

一般質問

4名の議員から一般質問がありました。質問・答弁を抜粋・要約して掲載しました。

第二青函トンネルに向けた考え方は

情報収集のうえ、関係機関に働きかけたい

【佐藤孝男議員】

大手建設会社、商社など
でつくる日本プロジェクト
産業協議会は貨物列車と自
動車用の2本目の青函トン
ネル建設構想を発表し、国
土交通省に提言することと
している。

北海道新幹線の札幌延伸
を控え、トンネル工事基地
の当町において、構想実現
に向けた次の点に関する町
長の考え方を伺います。

- ① 関係機関への要望
- ② 地元選出議員等への陳情
- ③ 町民の機運の盛り上げ



佐藤 孝男 議員

【鳴海清春町長】

今年度から、国土交通省、
JR北海道、鉄道運輸機構、
鉄道路線強化検討会、日本
プロジェクト産業協議会等
に対して、まずは情報収集
を進めたい。

また、情報を整理のうえ、
青森県外ヶ浜町などと連携
し、国や関係機関、地元及
び北海道選出の国会議員に
当町の考え方や構想に対す
る理解について、アプロー
チを強めてまいりたい。

当町には青函トンネル工
事に従事した方が多く、現
在でもトンネルマンとして
全国で活躍しており、要望
活動が表面化した段階で、
町民の機運は自然発生的に
盛り上がるものと考える。

入学準備金の支給時期を早めては

教育委員会・総合教育会議に諮り早めていきたい

【滝川明子議員】

国は新年度予算で「要保
護世帯」に対する就学援助
のうち、新入学児童生徒に
対する入学準備費用の補助
単価を約2倍に引き上げた。

また、入学準備金を5・
6月支給から、入学前の3
月に支給する自治体が増え
ている。

福島町における、就学援
助制度の入学準備金につい
ての考え方、取り組みを伺
います。



滝川 明子 議員

【前田勝広教育長】

入学準備金については、
小中学校の入学時に必要な
ランドセルや制服などの購
入費用に対する補助であり、
就学援助制度の中でも重要
なものと認識している。

支給時期については、全
国の幾つかの自治体におい
ても早めている状況を考慮
すると3月支給が望ましい
と考える。

平成30年度の入学者を視
野に、現行の要保護・準要
保護児童生徒援助費等助成
金交付要綱の見直しについ
て、教育委員会において
協議し決定したうえで、町
長の主宰する総合教育会議
に諮り進めてまいりたい。

一般質問

詳しい質問内容については、議会ホームページをご覧ください。

深浦医院閉院後の医療対策は

医師派遣要請しているが厳しい

【川村明雄議員】

深浦医院が4月20日閉院するが、新たな医師の確保見込みはいかがか。

また、現在深浦医院に通院されている高齢者等の通院が心配であり、新たな医師が決まるまで通院対策が必要。

地元小笠原医院との協議調整、近隣3町の病院との調整、各病院等で現在運行している患者送迎バスで対応できるか。

福島町においても送迎バスを検討する必要があるか



川村 明雄 議員

町長の考えを伺います。

【鳴海青春町長】

地元出身者が統括部長をしている千葉県の医療法人に医師派遣等要請をしており、現在も協議を進めている。しかし、4月20日以降の医師確保は厳しい状況。

当面は地元小笠原医院、松前病院、木古内国保病院などと連携を図り、医療対策に万全を期してまいりたい。

通院の現状は、近郊の医療機関からの10件程度の送迎バスや町のデマンドバス、函館バスを利用している。

これらの状況を踏まえ、閉院後の交通手段の検討をしたが、当面は町デマンドバスを積極的に活用する。

学校選択制度の導入について伺う

保護者等の意見をいただきながら市の在り方の合意形成に努めたい

【木村 隆議員】

教育委員会の吉小統合用件は「在学児童数10名未満及び在学児童の全保護者より統合要望があった時」であるが、10年以内の合意形成は不可能。「同学年児童の多様性」を希望する保護者は、我慢や引越の選択肢のみ。

平成9年に文部科学省が「通学学区の弾力的運用」を市町村教育委員会に通知し、平成24年には15・1%の市町村教育委員会が学校選択制を導入。当町の制度



木村 隆 議員

導入について教育長に伺います。

【前田勝広教育長】

1月23日に「吉岡小学校の在り方に関する話し合い」を行った。この話し合いの中で、保護者全員にアンケート調査を行うことや数多くの話し合いの場を持ちながら進めて欲しい旨の意見をいただき、現在アンケート調査を実施している。今後、アンケート集約を行い、結果説明を兼ねた話し合いを予定しており、「学校選択制」について教育委員会内での議論を加えた中で、保護者等の意見をいただきながら、吉岡小学校の在り方についての合意形成に努めてまいりたい。

平成29年度

一般会計予算 36億1,998万4千円

18件の議案
を原案可決。

1 件の議案
を修正可決。

予算審査特別委員会

※質疑・応答は、抜粋を記載し、要約しています。
掲載の順番は、第5次総合計画のまちづくり項目の順番です。

産業の再生による雇用の
創出・次世代を担うリ
ーダー等の育成

◎水産業、水産加工業

問 花田委員 製氷貯氷施設運
営費、委託管理料105万円は、
製氷から販売まで含めての管理
委託ということですか。氷を売っ
た代金はどうなりますか。

管理する金が、製氷を売った
金で間に合わないので補助する
のですか。

答 販売金額は指定管理者の収
入になります。かかる経費を差し
引いて年間の管理料を算出し、
その半年分がこの金額となります。
430トン売った場合の経
費を計算しており、限度額の1
万円の販売額では間に合わない。
平成30年には1年間を通して
の製氷事業になるので、その後、
実際の経費は出てくると思いま
す。

問 木村委員 ウニの蓄養です
が、福島町、松前町、両組合で
負担金を出し合うわけですが、
何百万円という額になるのでは
ないと思います。協議会の運営の流
れは、加入団体負担金自体がそ
の運営費になり、例えば未利用
のウニをダイバー採りしてきて、
浦和の漁港の方にとり流れて
事業費が使われるものなのか。
もう少し詳しく教えていただき
たい。

振興局の政策提案ということ
でスタートしますが、春先から
夏場にかけてのウニとは、やは
り品物も変わってくると思っ
ています。そういうニーズの無い
時期に、秋とか冬にかけてだと、
例えば居酒屋さんなどでは外国
製のウニを扱ったりしています
から、どういう風に流通のニ
ーズをこの未利用のウニが確保で
きるのか心配です。

そこをどう解決していくのか。
そこを解決しないと、勝負にな
らないと思っていますのですが、

見解を伺いたい。

答 協議会の在り方ですが、松
前・福島協議会を立ち上げて、
北海道と松前町・福島町・漁業
協同組合から、その協議会に各
町が実施する分の負担金を1回
集めます。実際にかかる福島・
松前の事業費をその協議会の方
から北海道の分を上乗せし、各
事業主体の方に支払うことにな
ります。

福島の場合は浦和より岩部付
近までの間の未利用のムラサキ
ウニを約2トン浦和漁港に移植
して給餌する。

漁港内に20メートル近くのウ
ニフェンスを張り、その中に入
れます。その移植からウニフェ
ンスの経費、維持管理として、
餌、密漁監視などの経費が、協
議会から団体に支払われる事業
費になります。

ウニ漁は9月15日で終了しま
す、ここ2、3年、12月のウニ
が良い値段で取引されています。
丁度ウニの端境期に当るので、
10月に移植したものを養殖した
昆布や各海岸に流れてきている
昆布を集めて給餌して、12月
に出荷できるところまで持って
いければ12月、1月に出荷した

いというのが松前と福島の考え方です。

◎商工業、地場産品

問 溝部議長 がんばる地元企業応援の関係ですが、後継者への対応ということも含んでいると思います。町民と議会の懇談会で、福島商業高等学校の新卒者に対する人件費の援助について質問された方から、町外の高校に出た子が、卒業したら地元に戻って来て自分の仕事を後継する。そういう際の対応がなく、不公平感があるという。

何か対応するものがないかと色々調べているが、今回の条例に見合うようなものはない。後継者の育成にそういうケースもあり、ＩＴマンの形にもなるので、是非、対応出来るような検討をしてほしい。

答 これまでも事業継承の中で、制度を明確にしてこなかった。高校存続の中でできる手当をしてきた。懸念しているのは、住民の生活の身近な商店が無くなることも大変な危機感と感ずています。

高齢化していく中で身近な買

い物先が無くなるということが大変ですし、建設業を含めて色々な方々が事業を継承するのが、厳しい時代になっていると思います。行政としてバックアップする必要がある、多様な意見を聞き、要望も拾い上げながら、新たな制度が必要であれば、積極的に行政としての支援はやっていきたいと思っています。

◎観光、交流

問 平沼委員 伊能忠敬北海道上陸記念の碑を建てるのが目的の基金ですが、これを観光のパーツとしてどう広げていくのか。その基本的なお考えをお伺いしたい。

今、まさに建てるようとしている機運がある時に、食欲にそういうコミュニケーションとかツールを使って情報交換をどんどんしていかなければならないと思っている。全国各地の方々と情報交換をするということが必要ではないかと思いますが、1つのツールとしてどうお考えなのか。

答 基金を設置し、没後200年を目的に記念碑を建てさせていただきたい。基金は、建てる

ことを目的としておりますが、最終到達点ではないと思っています。町づくりなり、人を呼び込む契機、ツールとして使えば良いのではと思っています。

伊能忠敬については、全国を測量して回ったということで、全国至る所に痕跡を残し、その町々が記念碑なり色んな形で顕彰するものを建てています。伊能忠敬研究会の名誉会長である渡辺先生とも少し意見交換をし、今回の基金設立にあたってでもアドバイスをもらいながら、全国のネットワークで、情報を深めていくことによって、1つの町づくりの契機になればとの思いがあります。建設までの間にきちんと構築をしながら、記念碑が有意義に活用されるような事業展開をしてまいりたいと思っています。

問 平沼委員 当町の地域おこし協力隊事業の方々、特に、観光に関する方々はなぜ長続きしないという印象を持っております。結局、外部から人を呼び込む器が出来ていないという印象があります。

来た人に対して、どの程度の仕事を、どの程度のレベルでや

らせるのか。外部にばかり研修に出したりすることが目立つような気がします。

もっと地に足を着けた活動が本来あるべき姿でないのかと思います。福島町としてはこういう考えを持っているから、それについてどうなんですかというぐらいの作業量を与えないと、この状態で人を受け入れるというのは至難の業だと思います。

観光業というものに対して視点を置いて活動していただくならば、あまりノルマ的なものを、自分達でも出来ないものを、言っただけであっても、出来ないと思います。少しずつやっていくという感覚を身に付けて、将来的にはここに住んでもらいたいということにしていくわけですから、その辺、違う政策がありますか。

答 今年、地域おこし協力隊については、2名の方をお願いしています。あくまで福島町への定住を目的に、その試験準備期間として3年間の期間を与えられ、特別交付税措置をしながら地域に馴染んでいくというのが目的です。

委員おっしゃるように、きちんとした目的なり、どうしてこの人をここで生活をさせていくのかという心構えが足りない。どうしても事務補完的な役割で使って3年間だけ消耗して帰っていくというのが一般的であります。先般も1名の方の面接をしました。福島町出身の方で、都会の方で働いて頑張っていて、是非自分がふるさとのために役に立ちたいと。

観光について全国歩いた中で、自分の思いもあるので、是非、働かせてくださいということでもあります。

もう1名については、観光協会の将来的には事務局長を担える方、また、工房の事務局長を担えるような方を求めることにしております。できれば将来を担える人達、そのためにはきちんとした器を作っていく必要があると思います。

準備期間としてこれから議会と協議をし、色んな形で予算をお願いすると思います。観光協会、工房含めて、きちんとその人達が働ける、3年後には福島に定住をしていただけるというスタンスの下できっちり連携を取っていききたいと思っております。

町民の安心安全な暮らし・がん予防対策の充実

◎高齢者の福祉

問 平沼委員 高齢者等冬の生活支援事業、安心生活創造事業費、老人福祉費。これら3事業を合計しますと総額大体1千万円近い金額になります。まちづくり組織化に向けた地域再生マネージャー事業や産業活性化サポート事業を組み合わせた中で、高齢者を対象に四季を通して見守るという組織づくりが、これから最も町として必要でなからうかと思えます。

事業内容はそれぞれありますが、根幹はみんな同じではと思っています。3事業と合わせて総務費の2事業も入れ、高齢者に向けてのサポート事業として展開されないか。

高齢者を見守ることは、我々の責任とします。積極的にこれも進め、新たな雇用を兼ね合わせ、是非、鳴海町政として進めていただければと思います。

答 高齢者の見守りを含めた全体的な考え方ですけれども、私

が選挙公約の中に掲げているのは、高齢者の方々が住み慣れた福島で如何に暮らしていくかをサポートすることが行政の役割だと思っています。

高齢者がどうしたらここから離れて都会に行くことなく、福島で最期まで住み続けるかを私達が如何に応援できるか。その中に、若い人達の仕事を作り得られれば、相乗効果として良いわけで、これからしっかり社会福祉協議会など関係団体と、話し合いの場を持ち、将来に向けた政策の構築に努めていきたいと思っております。

豊かな環境と若者等の定住対策・子育て環境の充実

◎公園・緑地、

景観、環境美化

問 佐藤議員 福島町の町花森林公園のヤマユリの現状は、どうなっているのか。ヤマユリの全国サミットを福島で開催したこともありすが、このヤマユリの関心が薄れてきているような感じがします。町花であるヤマユリに関しての情報をもう少

し発信したらどうか。
ヤマユリのシカの食害対策はどうか。

答 町花ヤマユリの現状としては、なかなか弱い花なので、薄くなっていることは確かです。ただ、森林公園管理委託の中で、そのヤマユリの保護という部分も進めておりますので、佐藤委員おっしゃるとおりヤマユリの保護を図って、今後またPRしていきたいと思えます。

シカの対策については、本当に頭を悩ませている問題でして、シカの嫌がる薬というか、それを利用しながら近付けないような工夫をしております。



森林公園のヤマユリ

◎道路網

問 杉村議員 私の家の向かい

側に吉田町近辺の雪がほとんど投げられています。従来投げてあった箇所には、道から管理委託されている樋門があり、その左側に今、投げられています。

答 国有地がこの2年ほど前からすべてパイプで囲っており、すが、町の方に払い下がりなりして、従来の場所の方に捨て場を持っていけば、樋門に何も差し支えないと考えます。捨て場の管理を調べてください。

答 国有地につきましては、柵をして囲んだという経緯が分からないので、国有地を管理している方にその状況、どういう考え方でやったのか確認をしたいと思っています。

樋門があることも承知しております。樋門の開閉に迷惑にならないよう気を付けていきます。国有地については、その経緯について調査をして、後日報告したい。

問 川村議員 蝦夷ヶ沢線は長

年の懸案事項解決になると思います。文書質問した時、町長に

考えがあるということ、こんなに早く出てくるとは思わなかったのですが、設計工期に4カ月を要するということが、できれば、平成29年度中の施工というのか。3千万円もかかることですから、長い期間を要するでしょうが、早く解消出来れば、地域住民にとって良いと思います。

答 蝦夷ヶ沢線については、町内会要望が出され、難しい点の色々複合的にあり、良い回答ができませんでした。

土地の境界の関係、所有者が分からない家屋など、問題をクリアするのに大変でしたが、町内会の協力で、土地所有者の協力もいただけたというお話があり、ベストではないかもしれませんが、車を通せる形で考えております。

土地の境界の問題、設計も含めて、工事自体も急勾配の中で、色んな検討を加えていかなければならない。

財源探しもし、準備を考えると、年内というのは厳しく、平成30年度で着手して、そこに住んでいる人達に問題解決をしてあげたいと思っております。



町道蝦夷ヶ沢線

◎児童福祉、子育て支援

問 木村議員 保育士さんの関

係ですが、今回の件については、バランスを見て採用したいというところで、理解をしたいと思います。

2年後、5年後、それなりの方が抜けていくような状態になりますので、是非、新人でも構わないので若い方を採用していくようなスタンスになっていただきたい。

若者定住という観点で町長も行政運営していると思います。松前の認定こども園で働いている22歳の保育士さん。福島町出身で福島町から通い、担任も持

ち、頑張っている方もいますので、是非その辺を加味して、今後の展開を迎えていただきたいと思っています。

答 保育士については、定員管理をもう一度、見直しました。世代交代がかなり進んでいて、中間層の人材がなかなか確保できない。

特に資格を持つている技術系の人達は、人数が少く、仕事を引き継ぐ関係もあり、ある程度、経験のある方で整理をしました。退職がここ3年ぐらい保育士も続いています。

若い人達の働き場所も確保することが必要だと思っております。その機会を無くすることではなくて、状況に応じて、サービスを低下しない形で若い人を雇い入れることが出来れば、問題ないと思っています。定員管理の計画できちんと考えを整理しながら、取り組んでいきたい。

学び合い、たくましい人を育てる

◎生涯学習（推進体制）

問 熊野委員 福祉センターの調理場を有効に使う状況で、町民からの要望はありませんか。

大きなイベント等で食を提供する場合、食品衛生法上で、使いつらい状況になっています。

厨房設備の問題と、衛生管理責任者等々の問題で、許可がなかなか出てこなかったという事例がある。

提供する食べ物によらず、衛生上の管理がきちんとなっている施設だと、有効に活用できると思う。福祉センターがきっかけと活動の拠点になることも大事ですが、食品衛生協会等も含めて、手続きをどうすれば福祉センターを使えるかという方が結構ありました。

難しい話じゃなく、自分達で団体を組織し、所管にお話をし、協力を求めれば有効に使える状況ですがいかがか。

答 現役時代にイベントをやる、常に保健所と許可の関係で

厳しい状況に置かれました。衛生面では、不特定多数の方を相手にする中で、臨時的に許可は下りるけれども、固定的許可は下りないとは認識しております。施設を管理している人が許可を取るとか、手法はあると思いますので、福祉センターがどういう形になるかは別にしても、食を展開する基地にはなっていると思いますので、木古内保健所に伺って、こういった形であれば、クリアできるのか相談をし、事前に年間のスケジュールは決まっていますので、町の方でもなるべく使う人がその時に困らないような形を何とか探っていきたいと思っています。

◎幼児教育、学校教育

問 木村委員 部活動の関係ですが、生徒が減り、先生の数も減り、部活動の数も減ってきて、なかなか子ども達が自分の希望する部活に入れない。

今、部活を一生懸命取り組める環境ではないのかなと思っています。

特に女子の部活は、バスケット陸上しかない。体育推進学校みたいな基礎体もやって、スポー

ツが盛り上がっていた時代がありました。団体競技も単独でやるのが難しくなってきました。

そろそろ部活動の見直し時期にきているのではないかなと。今すぐというのは無理ですから、小学生が中学校に行ったら、どんな部活に入りたいのかアンケートを一度取ってみたらどうか。

例えば福島中学校にテニス部があったら、福島商業にテニス部あり、テニスができる環境もありますから、中学校を卒業する時にテニスを続けたいので福島商業に行きたいという子も出てくるかもしれない。

知内の吹奏楽が強いから女子は吹奏楽で知内に行ってしまう。野球も知内の方に行ってしまう状態ですから、部活の面の考え方も新しい教育長には見直しをしてもらいたいと考えています。が、見解を伺いたい。

答 木村委員のおっしゃるような視点で部活は見ておりませんでした。

先生がなかなか福島の方には、部活動で一生懸命やってくれる先生の確保がなかなか難しいというところだけの考えで私自身

終わっていました。

発言を受けまして、中学校の部活動を如何に活発にしているかということに向かって校長会、教頭会で協議して進めたいと思います。

問 熊野委員 福島中学校は吹奏楽活動が伝統です。高校から普段買えない楽器を借用していると説明があつたが、高価な大型の楽器と思います。

商業高校に小学校の金管バンドで使っていた楽器を移した経緯が過去にあります。が、小学校でやられなくなつて、高校に残っていたり、福島中学校にあつたりしています。

楽器の状況をきちんと把握しないと、駄目なかと。社会人で吹奏楽活動をやっている団体との連携も考え、福島商業に進学して、社会人の皆さんと一緒に吹奏楽をやれるということもあれば、知内まで行かなくても、吹奏楽だけであれば、そのような方向性も出てくるのかと。指導体系のところまで出てくるとは思います。が、そのことについて伺っておきたいと思っています。

答 今の福島中学校の音楽の先生が吹奏楽にかなり力を入れており、地元の吹奏楽会にも加入して積極的に活動しているの、この先生がいる間にきちんともう一回楽器の整理・見直しをしながら、町長の方と協議し、計画的に福島中学校の吹奏楽の楽器を整備し、大人の方も一緒に使う環境を作っていければと考えております。

◎芸術文化、文化財

問 平沼委員 永田文庫について、デジタル化し、公開するという考えを聞きましたが、どういう形で公開していくのか。永田文庫の資料等々をどの程度、どういう内容でDV化しているのか。

それによって、町民開示の方向性と、資料を見ることによって町民が福島町の町史についてどう絡んでいけるか、町民も意識が高まっていくと思うが、どう考えていますか。

今後、原本をどのように保管していくのか。その保管体制もお聞きます。

過去何年も資料を永田先生から頂いて、方向性がきちんと決

まっていれば、学芸員にお頼みするという答えにはならないと思うが、スタンスはどうですか。学術的なものとか、文化財的なものの立ち位置を福島町はどうしたいということ、決めておいた方がいいと思います。

特に、永田文庫に関しては、福島町の町史の根幹をなす資料も結構含まれていると思います。取扱いについては、先生の長年の歴史が入っているわけですから、きちんとした方向性を出来ればと感じておりますが、ご意見をいただければと思います。

答 今後の公開の方法、原本の保管の方法については、学芸員が配置される予定ですので、学芸員を中心として文化財調査委員などと協議をして進めたいと考えております。

基本的には永田先生からいただいた貴重な資料を、保存・活用するというのも目的に今の作業を進めている。

皆さんに見ていただくことをまず基本にDV化している。公開に向けては一定程度整理し、どのような手法が良いのか、協議したいと思っています。

保管ですが、スペース的なも

のもございせんので、福祉センターの現在活用している書庫の中で保管していくしかないものと理解しております。

幸い、すぐ近くに図書室の職員もおりますので、普段は施錠して鍵はかけて保管しますが、要望があつた場合は、現物をその場で見てもらうという対応は十分可能ですので、今後、検討していきたいと思っています。



福祉センターへ収蔵の永田文庫

協働のまちづくり・

行財政運営の充実

◎行政運営

問 平沼委員 町内会連合会助成費について、町内会連合会独自によるコミュニティ事業の展開ということに対して、各町内会長さん達も高齢化になってきて、全体的な予算が10パーセント、平成17年度の自立プランから削減したことによって、町内会連合会自体の活動がある程度、抑制されたような状態になって独自のコミュニティ事業が出来ないのではないかと懸念もあります。

先進地の視察とか、問題提起を連合会の方にかけて、躍動感ある連合会活動がこのコミュニティに繋がっていくと思うのですが、お考えをお伺いしたいと思います。

答 活動を見ますと、従来のように自前の視察をしているわけでもなくて、参加率も低く、少し縮小していると思っています。予算についても、50周年に向けて積立てをしています、75万

円位の予算で30万円ぐらいの繰越を残しているという状況で、自前の活動も出来ていない実情です。

道南ブロックの研修会に併せて参加していると記憶しています。

町内会連合会は、一つのコミュニティの組織としては、一番小さな単位の大事なものだと思っています。

補助金を減らして活動が鈍るということではなくて、積極的に活動していただけるのであれば、増額することも問題ないと思っています。

連合会の中でもやり切れていないというのが現状だと認識をしております。

問 平沼委員 福島町から297名の方が戦死されております。年々遺族の方々も高齢になり、遺族会も解散するようなことも聞いております。

限られた範囲内で事業を進めるよりも、町民挙げて御霊に敬意を表することを考えると、事業の転換期だと思います。遺族の方々が15名参加しているとは言うものの、参加がだんだん出来なくなり、戦没者に対する敬

意も薄らいでくるような気がします。もうそろそろ全町民にそういう事実があった事を知らしめる方が良いと思うので、お考えをまずお聞きます。

違うことをやると反発も出てくるとは思います。誰かがやらないと、だんだんこの気持ちは下がってくると思います。是非、この町長の段階で遺族会の方々と十分協議し進めてもらいたい事業だと思います。

答 戦没者の件については、戦争で亡くなった福島町の297人の御霊をまず敬うことが、一義と思っています。

遺族の方々で家族を亡くされた方に対しての敬意を表すなり、色んな形の中で式典が行われていると思っています。戦後大分経って高齢化し、遺族も少なくなる、身体の関係で参加できないという状況ですが、今の平和がどうして出来ているのかを伝える一つのセレモニーだとも思っています。

今の段階でそろそろ、戦没者追悼式の在り方をもう一度、検証しながら、一般の人がなるべく参加しやすいような形も取っていかねければと思っています。

ので、前向きな検討をしていきたいと思っております。



平成28年度戦没者追悼式

問 滝川委員 今年1月、埼玉県杉戸町で平和宣言と平和事業、平和企画展など研修してきましたが、我が町においても平和宣言をし、平和事業、平和企画展などを行ってはいかがでしょうか。議論に出ておりました戦没者追悼式も平和事業として取り組んではどうでしょうか。お考えをお聞かせください。

戦没者追悼式に毎年参加させていたでいて、いつも思うのですが、実に郷土愛とか平和の思いで感動的でした。一人でも多くの町民の方と、遺族の方だけ

でなく、共有したいものと考えておりました。

遺族会との話し合いがとても重要だと思うので、検討してくださいますよう求めて、質問します。

答 現時点で平和宣言についてはまだ考えていません。

戦没者の在り方があり、そういった中での恒久平和が念願です。町として対応、貢献できる事があれば、将来に向かっての検討の一つかと思っております。

まず、経過の中で考え方も整理しながら、色んな方々と相談し、必要な時期に議会の方にお諮りして行うような形を今後考えていきたいと思っています。

世界の恒久平和を祈るということは我々の責務だと思っております。遺族の方も本当に少なくない、いても戦没者の日に参加できないといったこともあります。

戦争を経験しない人が、圧倒的に多くなってきたいますけれども、一つの語り継ぐツールとして必要だと思っておりますので、今後の在り方として、色んな形で将来に向かった検討をこれから重ねてまいりたいと思っています。

経済福祉

【調査概要】 H29. 2. 17開催

本調査は、平成18年度の試行を経て、平成19年度から本格実施している学童保育について、現状と少子化に伴う今後の見通し等を確認、調査したものです。

学童保育について

柔軟性のある福島らしい学童保育の検討を！

【論点と意見】

1. 対象児童の実態把握について

学童保育の利用人数については、平成21年度をピークに減っているとの説明だが、学童保育を始めた当初から対象を広げ、今年度からは利用料も無料にしているなかで利用者が減っている状況にあることから、学童保育を利用していない児童も含めた全児童の家庭状況等の実態調査により現状把握をする必要があると考える。



学童保育

2. 補助内容の確認について

今後の運営課題として、学童保育事業の財源としている国、道補助金の利用者基準である10人を切る可能性について説明があった。助成制度の本旨は、家庭での保育に欠ける児童が対象だと思うが、学童保育を始めた当初とは状況が大きく変化しており、補助金の名称が「放課後児童健全育成事業」となっていることから、保育に欠けない児童であっても補助対象とならないか、今一度、補助内容を確認、精査することが必要と考える。

3. 保育内容の充実について

現在の保育プログラムは、預かり保育的な観点から児童の安全性に重点を置いて計画されており、制度上から児童教育とは連携していないことは理解するが、少人数で対応している状況を活かし、児童教育との連携も考慮した柔軟性のある福島らしい学童保育を検討されたい。

○福島町温泉健康保養センター条例の一部改正について 【H29. 2. 17調査】

定例会12月会議において一部改正された福島町温泉健康保養センター条例について、昨年11月29日開催の本委員会における委員会意見として、指定管理者制度導入にあたっては「利用料金制度」の採用と、指定管理料を含めた関係経費の精査が必要な旨の意見書を手交したところであり、今般、町では本委員会の意見書に沿った条例の一部改正を定例会3月会議に提案予定のことから、条例改正の内容及び指定管理関係経費の内容等について確認・調査したものであり、その調査結果を以下のとおり報告する。

【論点と意見】

利用料金制度を取り入れた条例の一部改正については、本委員会が手交した意見書にもあるとおり利用料金制度は指定管理者のインセンティブを高めるものであり了承する。指定管理に当っては利用者に信頼される接客に努め、最小の経費で最大の効果が得られるよう努力されることをしっかり伝えられたい。

* 「インセンティブ」とは ⇒ 動機・誘因 ⇒ 「やる気を起こさせる・目的を達成させるための刺激」という意味です。

常任委員会レポート

経済福祉

福島町製氷貯氷施設 条例の制定について

【調査概要】 H29. 2. 17開催

本調査は、平成28年度定例会12月会議において工事請負契約の締結を議決し、本年10月1日の本格稼働を目指して現在建設中の製氷貯氷施設について、定例会3月会議に管理条例を提案することから、指定管理者による施設の管理、運用方法等の内容を確認・調査したものです。

【論点と意見】

1. 施設管理条例の制定について

施設管理条例の制定及び内容については概ね了承するが、以下の点について漁業協同組合と十分協議されたい。

① 指定管理者による施設の維持管理について

公設民営で整備された既存の製氷施設の管理については、管理委託を踏まえ、受益者である漁業組合が正常な効果を維持する営繕に努めることが求められていたと推察するが、結果として疑義が残るものになったと思慮される。新しい施設は指定管理者制度による管理となることから、相応の責任感をもって維持管理するよう十分協議願いたい。

② 氷の販売価格について

条例案では製氷料を10,000円/トンとしており、隣町と比べても安価となっていることから町外漁業者の利用も考えられる。町が整備する以上、漁業者はもとより町民への販売価格を抑えることは理解するが、他町の漁業者等への販売については経費に見合った価格とするよう検討願いたい。

③ 施設の外観について

建設された施設は3階建て、国道からも見通せることから、施設をアピール、福島漁業をPRし、町民や漁業者に親しまれる外観としてはどうか検討願いたい。



建設中の製氷貯氷施設

常任委員会とは？

地方自治法第109条の規定により設置される委員会です。

当町は、総務教育と経済福祉の二つの委員会があります。

委員会は、町の施策について、調査し、議会としての意見を施策に反映させています。

第2次福島町まちづくり行財政推進プランの変更について

総務教育

【調査概要】 H29. 2. 22開催

本調査は、平成27年度定例会2月会議において議決された第2次福島町まちづくり行財政推進プランが、平成29年度予算時期までに計画の内容を再検証し修正が必要なものを整理することとしていたもので、平成29年度当初予算の編成にあたり、今般、5項目について見直しを行い、平成28年度ローリング作業における前期実施計画の変更と合わせ、財政推計の見直しを行ったとのことから変更内容を確認・調査したものです。

【論点と意見】

1. 使用料・手数料の見直しについて

町民プール使用料の無料化については、他の社会教育施設使用料との整合性において疑義が残る。本来の自治のあり方として「自助・共助・公助」は大事な視点である。無料化について慎重に対応しなければ、不公平感が生まれ、これまで醸成されてきた、受益者（町民）が応分の負担をする自助、支え合う公助の意識の低下が懸念される。

2. 補助金等の見直しについて

(1) 松前神楽保存会助成金について

当該団体に対する助成金については、松前神楽（町指定文化財）が国指定を受けるため神楽奏上の機会が増えることに伴う見直しとのことだが、助成先が神社ということから政教分離の点で慎重に対応願いたい。また、若い後継者の育成が大事であり、具体的な活動助成としての支援も考慮願いたい。

(2) 南北海道駅伝競走大会助成金について

次年度開催に向け、実行委員会でコースの見直しや前夜祭について検討する際には、前泊するチームへの配慮をはじめ、参加者への最大限のおもてなしで参加チームの増加につながる工夫と配慮を願いたい。

(3) 補助金のあり方について

団体によっては多額の繰越金を計上している状況があるとのことだが、補助金の交付にあたっては、活動事業補助の主旨を徹底し、事業の実施内容についてしっかり検証し、そのうえで補助額を増減させることで団体から理解を得られるものと思慮する。

3. 職員定数管理計画の精査による見直しについて

職員体制の現状を見ると同じ役職での業務能力の低下を感じる。特に自治体間競争が激化する状況下で求められる情報収集（発信）能力、企画力、判断力等が大きく不足していると思慮する。

町の人口が減少しているなかで職員定数を削減する方向性は理解できるが慎重に対応願いたい。

職員削減を進めながら行政水準を保つための重要課題は、職員の資質向上・意識改革であり、職員全体で現状を認識し、情報を共有し、住民の期待に応え、効率的に機能する組織を目指し、研修体制を整え実行されることを期待する。



町民プール

常任委員会レポート

総務教育

社会教育施設利用料について

【調査概要】 H29. 4. 28開催

平成29年2月22日開催の総務教育常任委員会において、町民プールの利用料無料化を含む「第2次福島町まちづくり行財政推進プランの変更について」を調査し、委員会意見として町民プール利用料については「他の社会教育施設との整合性」を指摘し再度検討願いたいとしていたが、定例会3月会議においても調査時と同じ内容で議案が提出されたことから、修正動議により町民プール無料化を除く修正案が提出され可決している。このたび、町より委員会意見を踏まえて社会教育施設利用料の見直し案が示されたので内容を確認・調査したものです。

【論点と意見】

1. 社会教育施設利用料の見直し案について

総合体育館の現状維持及びパークゴルフ場利用料の見直しについては了承する。

町民プールの使用料を無料とする提案については、平成25年度に提案されてから所管の常任委員会の意見が示されているが、抜本的見直しや分析が行われないまま今日まで推移している。町長は一度合併協議前の状態にリセットしたいとのことだが、自立の道を歩むに至った状況に鑑み、無料ではなく引下げが妥当であると思慮する。なお、当該施設の見直し案については、委員会内においても意見が分かれ委員間での意見交換・討議でも纏まらなかったことから、多数意見と少数意見を付記する。

- ・ 多数意見：見直し案を了承しない。

以前の委員会意見同様、他の施設との公平性・平等性を考慮すると当該施設を無料とするのは問題があると考える。

- ・ 少数意見：見直し案を了承する。

町民プールの設置目的は学校プールの代替施設という位置づけが強く、パークゴルフ場等と違い当初は無料の施設であったことから、町の財政状況を鑑みた上での今回の見直し案に賛成する。

2. その他

今回の資料から、社会教育施設の利用料については教育委員会においてもきちんと検討・整理されていないことを憂慮する。今回の見直し対象施設には該当していないナイター利用料については、4月から引き下げられているものの、他の施設（総合体育館等）の使用料の考え方からすると利用者負担が高く、公平・平等性という点で疑義が残ることから、改正したばかりではあるが見直しについて検討されたい。

国道228号線の改良について 【H29. 4. 28調査】

国道228号線は地域住民にとって生活を支える根幹的社会基盤となっているが、台風等の暴風雨・越波に弱く、たびたび通行止めが発生している。しかし、災害時の迂回路等の抜本的解決手段として要望している「地域高規格道路松前半島道路」の整備は進んでいない。このような中で、松前半島道路建設促進期成会構成市町、函館開発建設部において現道の課題等を整理した資料等が示されたので課題整理の状況や要望活動の方向性など、今度の対応方法を確認・調査したものです。

【論点と意見】

松前半島道路の要望については、継続して要望しているとのことだが、未だ計画路線昇格に至っていない。平成28年度は松前半島道路に絞って要望活動を実施し、構成四町の首長が初めて国土交通省北海道局長に現状と課題を伝え、構成町の実態を強く印象付けることができたとのことであり、引き続き構成市町と協力して要望活動を進められたい。

福島町定住促進住宅基本計画及び 建設用地取得について

総務教育

【調査概要】 H29. 4. 28開催

平成27年11月に策定した第5次福島町総合計画において、若者等の定住対策と子育て環境の充実を目標の一つに位置付けており、町では平成29年3月に「福島町定住促進住宅基本計画」を策定している。今般、当該計画と建設用地取得に係る具体的な内容が示されたので、定住促進事業に係る町の考え方について確認・調査したものです。

【論点と意見】

1. 福島町定住促進住宅基本計画について

(1) 検討委員について

今回の計画を策定するにあたり、町内の若手建設業者と役場職員が検討委員になっているが、若者定住、子育て世帯を対象と考えた場合、検討委員の招集範囲が偏っていると言わざるを得ない。実施に向けた具体的な方向性等を決める次の段階では、子育て世代の代表等から広く意見を伺う機会を設定するよう検討願いたい。

(2) 基本計画の策定経緯について

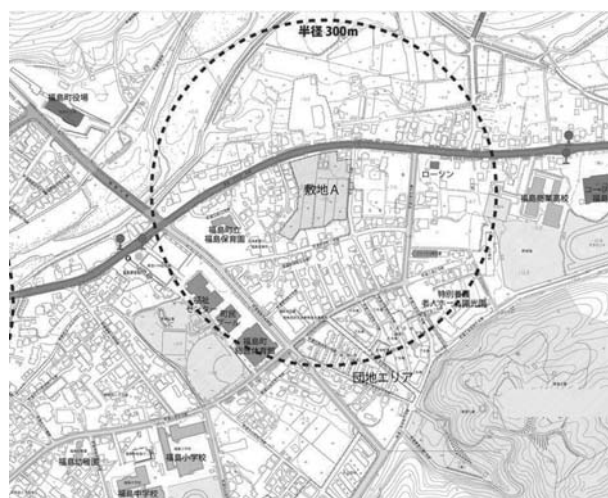
当該計画については、資料から建設場所・コンセプトが特定された印象が強く、検討委員の新たな発想、自由闊達な意見交換ができづらい状況で検討されていたと推察される。計画策定に当たっては、まず若者定住促進について基本的な検討や町民の意見を聞くべきであり、その後、場所や建物といった具体的な検討を行うのが本来の流れだと思慮する。

2. 今後のスケジュールについて

示されたスケジュールでは、先に土地開発基金により土地を取得し、その後、定住促進住宅計画を第5次総合計画へローリング掲載するとなっているが、現況は空家の増加や民有地の空洞化等、先行投資で土地を取得し公共施設整備を進める環境にないと判断する。総合計画条例の主旨からも、総合計画の平成29年度ローリングに若者定住対策としての町有住宅建設、関連用地の取得を掲載し町民に明確に見えるよう、一般会計で土地の購入費用を予算化、平行して土地開発基金を処分、財源に充当するよう検討願いたい。

3. 取得予定の用地について

当該用地についてはこれまでの経緯から購入せざる得ないと思慮する。しかし、資料では実際の土地面積が公簿面積よりも大きいことから、実測による土地の取得に当たっては、当町の土地・住宅等の事情を土地所有者に理解して頂き、購入価格をできるかぎり抑えなければ、町民の理解を得ることは難しいと考える。



用地取得予定位置図

4. 総括意見

今回の調査において示された基本計画については、その策定手法が些か性急な印象を受ける。まず、土地の取得について調査を行い、その後取得する土地の活用方法について調査を行うべきではなかったかと思慮する。なお、意見交換の中で町長から、今後、段階を踏んで計画を進めるとの説明があったことから、引き続き調査を継続する。

町民と議員との懇談会

わかりやすく町民が参加する議会

【町民との懇談会について】

議会では、議会基本条例第7条第8項の規定に基づき、全議員出席のもと、町民に対する説明責任を果たし、情報を共有するため議会報告会を開催しています。名称を「町民と議員との懇談会」とし、全町内会（18会場）を対象に議員が3班に分かれ開催する形を平成24年度から取り入れ、本年度で4回目となりました。

平成28年度は、2月2日から14日までの6日間、町内18会場で実施しました。



懇談会風景

意見総括【各会場での意見等を集約しています。】

今回の懇談会では、議会だより第112号を資料として説明しましたが、株式会社ヤマザキ・医療法人社団明生会に対する意見が多く出される結果となりました。このことは町内に雇用の場が少ないことによる町民の期待と、高齢化が進む中での医療体制への心配の表れだと考えます。株式会社ヤマザキについては、久々の企業誘致に繋がることから議会としても、町内に少しでも雇用が生まれ、原材料の提供とともに様々な形で町内経済波及効果を期待し、どのような支援が出来るのか議論していく必要があると考えます。さらに、深浦医院の閉院に係る医療法人社団明生会の医師招聘については、招聘が進まなければ、人口の減少にもつながっていく問題であり、行政と一体となり、早急に対応する必要があることを確認しました。

また、今回は、定例会1月会議において議決した「議員歳費及び費用弁償等に関する条例の一部改正」の内容についても説明しました。平成22年度から「福島町議会基本条例に関する諮問会議」において、議員歳費月額及び議員定数を諮問し、「福島町方式」として議員歳費月額の答申を受けました。議会運営委員会や全員協議会を経て、議会報告会を開催した際には、多くの厳しい意見も出されましたが、その後、議会だよりや、議会報告会で、出来るだけわかりやすい議会・議員活動の説明に努め、少しずつ議会・議員活動が町民に理解され、今回の議会報告会の中では、批判的な意見はありませんでした。現状に満足することなく、これからも議会としての説明責任を果たしていきます。

議会報告会は継続して実施して行くことが重要です。今回、意見で出されていたように開催時期については検討が必要な部分もありますが、現状のように町内会館ごとに細かく開催していくことが、小さな声も拾い上げることに繋がっていくと考えます。また、出された意見を議会として総括し、それぞれの議員活動に活かし、議会活動に連動させ、政策提言へと進展させる実践が必要です。例えば、今回出された意見の内容から、一般質問、予算審議へ繋げる、あるいは、所管事務調査を実施し政策提言へ連動するなど、点から線へと活動を展開していきます。

議 会 の 評 価

【平成28年度（1年間）の活動結果】

議会は、町民に議会・議員の活動内容を周知し、情報を共有することにより、議会活動の活性化を図るため、しっかりと現状を把握し議会の評価を行っています。

議会活動を主要10項目と具体的な36項目に区分し議員・議会の活動状況の基礎資料と、全国・全道の町村議会の実態や先進的な運営をしている議会などと比較検討し、議会運営委員会（4月21日決定）が評価して町民に公表するものです。

昨年度との比較で良化・悪化した項目はありませんでしたが、本年度も引き続き、「町民が実感できる政策を提言する議会」を目指し、評価結果・諮問会議の意見を参考にしながら新たな課題を設定し、豊かな福島町のために不断の努力を続けてまいります。

※ 1. 議会の活性度、③討論、④討議については、諮問会議の意見をいただき、平成27年度評価から③討議・討論（本会議）、④討議（委員会）と改正しております。

【評価の分類：○＝「概ね一定の水準にある」 △＝「一部水準に達成していない」 ▲＝「取組みが必要」】

主 要 評 価 項 目	具体的な項目	過去3年間の評価			H28 評価	摘 要
		H25	H26	H27		
1. 議会の 活性度	①一般質問	△	△	△	△	H28に一般質問を行った議員の延べ人数・項目数は前年と同数であり、一定例会平均質問者3.8人（35.0%）（全国6.3人（52.5%）全道4.6人（41.4%）渡島管内4.9人（39.5%））となっている。より積極的な一般質問への取組みが必要である。昨年度と同様、一般質問の追跡調査を実施している。 ※％は一定例会平均質問率
	②質疑	○	○	○	○	本会議を始めとし、予算・決算審査特別委員会の審議も活発に行っている。引き続き質疑内容を充実する。 （本会議の質問率：定例69.4%、定例外20.0%） （平均質問者・件数：定例6.3人、35.3回 定例外1.8人、4.0回）
	③討議・討論（本会議）	△	△	△	△	事前勉強会等の実施により本会議での討議・討論は少ないものとなっているが、引き続き論点・争点を明らかにした討議・討論への取組みが必要である。 （H27＝本会議1件 延べ1人、H28＝本会議1件 延べ1人）
	④討議（委員会）			○	○	各種委員会において質疑・意見交換で出された内容を論点整理した項目に沿って活発な議員間討議を行っている。 （H28開催日数：常任委員会＝19日、特別委員会＝6日）
	⑤議員提案	○	○	○	○	一般質問を行った事項を常任委員会で検討し、所管調査として取組み項目はないとしている。所管事務調査結果を行政側に手交することで議会の考えが政策等に反映されるようになっている。政策を反映する条例提案までには至っていない。
	⑥文書質問	△	△	△	△	質問が特定の議員に偏っている。政策提案等に向けた文書質問への取組みが必要である。 （H27＝実3人、5項目 H28＝実2人、5項目）
2. 議会の 公開度	①委員会の公開	○	○	○	○	本年も100％公開し、委員会は主に議場で行いライブ中継を行っている。
	②審議記録の公開	○	○	○	○	ホームページで全て公開している。
	③審議前の会議資料の公開	○	○	○	○	基本的に全て公開している。
	④議会経費の公開	○	○	○	○	決算内容を含め、交際費及び政務活動費などの詳細も全て議会だより及びHPで公開している。
	⑤視察報告の公開	○	○	○	○	本会議及びホームページで公開している。
	⑥全員協議会の公開	○	○	○	○	ライブ中継及び録画配信を行っている。
	⑦会議公開の充実（ライブ中継）	○	○	○	○	適宜、配信機器の更新を実施し、鮮明な映像配信を行っている。また、町民からの要望に応え、スマートフォンでの視聴も可能としている。（録画配信のみ） 全道＝71議会
3. 議会の 報告度	①議会だより・速報版等の発行	○	○	○	○	議論状況や内容をより分かりやすくまとめ、質疑等の掲載も充実させた。H28年6月発行分からは文字サイズを拡大している。 全道＝単独発行120議会
	②議会ホームページの運用	○	○	○	○	H28年3月より議会ホームページをリニューアルした。引き続き、迅速な公開に努める。 全道HP＝123議会
4. 住 民 参加度	①各種団体との懇談会の開催（常任委員会の活動）	△	△	△	△	テーマと開催方法（住民主催等）を工夫した取組みが必要である。 〔懇談会：H26＝0回、H27＝0回、H28＝2回、出前議会：H24＝1回〕
	②町民と議員との懇談会の開催	○	○	○	○	H28は議員を3班に分け町内会単位で実施した。引き続き懇談内容の充実への取組みが必要である。（H27＝1日間・1会場30人、H28＝6日間・18会場124人） 全道＝56議会
	③参画者への対応と参加度	○	○	○	○	参画者にも同様の資料を用意している。討議への参画が課題である。 （H27＝定例20人、平均5.0人 定例外48人、平均4.0人） （H28＝定例15人、平均3.8人 定例外8人、平均1.3人） （全道平均＝定例13.2人、定例外1.7人）
	④休日・夜間議会の開催	○	○	○	○	H19から夜間議会を開催している。休日議会は未実施である。 （H27＝12人、H28＝8人） 全道＝夜間6議会、休日8議会

※ 1 「討論」とは、議会の本会議において、表決の前に、議題となっている案件に対し、賛成か反対の議員個々の意思を表明すること。

主 要 評 価 項 目	具体的な項目	過去3年間の評価			H28 評価	摘 要
		H25	H26	H27		
5. 議会の 民主度	①一般質問の一問一答方式	○	○	○	○	一問一答方式を実施している（H12）。 全道＝113議会 質問回数と時間制限の規定を廃止している（H20）。 全道＝10議会
	②説明員との対面方式	○	○	○	○	庁舎建設時から実施している（H6）。 全道＝128議会
	③一般質問の答弁書配付	○	○	○	○	実施済み（H13.9）。質問に関する的確な（漏れや補足答弁を必要としない）通告書、 答弁書となるように改善していくことが必要である。
6. 議会の 監視度	①長との適正な関係の維持	○	○	○	○	福島町議会議員の不当要求行為等を防止する条例を制定して（H20）、町長との適正な 緊張関係を維持している。
	②全員協議会の適切な運用	○	○	○	○	事前協議となるような執行者からの要請による開催はしない。
	③議会権能（けん制・批判・ 監視等）の適切な遂行	○	○	○	○	常任委員会等の所管事務調査結果を手交している。一般質問等の追跡調査要綱を作成し H27.3月会議から実施している。 （追跡調査 H27＝16件、H28＝5件）
7. 議会の 専門度	①所管事務調査の充実強化	○	○	○	○	常任委員会の所管事務調査は論点・争点を整理し委員間で討議し意見をまとめている。 調査意見を行政側に手交し説明することで委員会の意向が政策に反映されるようになった。 また、H25より一般質問項目を対象とした所管事務調査に取り組んでいる。[H28 調査件数21件]
	②政策立案・審議能力の向 上強化	○	○	○	○	各常任委員会における条例の制定や条例の改正等について、議会として、町民の利益に なるような修正意見を提言している。 ・福島町ががんばる地元企業等応援条例の制定 ・温泉健康保養センター指定管理者制度導入に伴う利用料金制度の導入 ・社会教育施設の使用料の検討
	③議決権範囲の拡大	○	○	○	○	町の主要計画を議決対象としたことで、各計画が広く認識され内容の充実にも繋がった。 議会基本条例見直し検討による行動計画に基づく議決事件の追加等の検討を行った結果、 12月会議において「福島町過疎地域自立促進市町村計画」、「福島地区マリンビジョン 計画」を議決事件から除外する条例改正を行い、議決事件は11件となった。
8. 事務局 の充実 度	①議場・委員会室の整備充 実	○	○	○	○	H27には議場映像設備を、H28は議場等音響設備の更新を行うなど、設備の適正管理 により映像配信等の精度向上が図られている。 また、議場内でのタブレット使用をH29年度から試行する。
	②事務局の充実強化	○	○	○	○	情報公開の迅速化、充実した情報・資料収集、法務能力の向上などに取り組んでいる。 体制は正職員3人、臨時職員1人で充実している。
9. 適正な 議会機 能	①法規定以外の執行部付属 機関への委員就任廃止	○	○	○	○	法定となっている、民生委員推薦委員会、都市計画審議会、青少年問題協議会のみ就任 している。
	②適正な議会経費	○	○	○	○	諮問会議の答申を踏まえ、適正な議会活動費の基準となる標準額を決定した。なお、H 28は町事業（医師招聘・企業誘致）に関連した行政視察を行ったことから視察研修旅 費が増額となっている。 （標準額＝3,184千円・H28決算見込額＝4,305千円）
	③議会の自主性強化	○	○	○	○	「議会基本条例見直し検討による行動計画」に基づき課題に取り組んでいる。
	④議会付属機関の設置	○	○	○	○	福島町議会基本条例諮問会議を設置し毎年度数項目を諮問し、それぞれ答申を受け議会 活動に反映している。
	⑤系統議長会の体制整備	○	○	○	○	道議長会に対し、町村議会が利用しやすいホームページへの見直しを要望している。 （資料提供、道内の町村議会のリンク等）
10. 研修活 動の充 実強化	①研修の効率的な取組み	○	○	○	○	本会議等の事前勉強会を実施し議案等の要点や問題点を確認している。議員研修会の報 告会を開催し情報共有を図っている。また、町が進めている事業等に関連して千葉県東 金市（医師招聘）、静岡県吉田町（地場産品活用）へ行政視察を、政務活動（先進地視 察）として埼玉県杉戸町（平和宣言等）、青森県三戸町（小中一貫教育等）を視察研修 している。

議会評価に対する 諮問会議の意見

去る5月22日（月）に開催された「議会基本条例諮問会議」において、平成28年度分の議会評価の内容等を検討していただきました。

諮問会議条例第2条に基づき、議長から調査審議を求められている事項のうち、平成28年度分の議会評価について、議会で決定した評価項目ごとの内容を検討し、次のとおり諮問会議の意見と改善内容をまとめましたので、その概要をお知らせします。

◎ 来年度の評価に向けて、主要評価項目及び具体的な項目を整理するよう検討願いたい。

【諮問会議委員】任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

○会長 村山 和治さん

○委員 金澤 富士子さん、工藤 昭一さん、鳴海 孝広さん、神原 勝さん（札幌市）



「議員活動の自己評価」!

平成28年度分（平成28年4月～平成29年3月）

平成17年分の議会活動から始めた議員の自己評価は、今回で12回目となります。議員自己評価は、全議員（10名）から提出がありました。右表のとおり5分野について具体的に取組んだ事項を3段階で自己評価したものです。

集計の結果、「取組の評価」については、項目全体の141項目中、「○ほぼ満足」は56件で40%、「△努力が必要」は75件で53%、「▲さらに努力が必要」は10件で7%となりました。

しかし、結果の評価では「○ほぼ満足」が26%と大きく差があります。このことから、今後も各議員の取り組みが今まで以上に結果として反映されるように努力する必要があります。

また、議員個人としての活動について、3名の議員から報告がありました。

□ 自己評価は次の指針により実施しています。

主要指針	評価の指針等
1. 態度評価	町民の立場で発言・行動をしているか。議会での態度（居眠り、私語など）、審議の態度（品位の保持、審議への協力）
2. 監視評価	一般質問、討論、質疑・意見交換・討議（発言）などで行政執行をチェックしたか。
3. 政策提言評価	町民の意向を政策に反映させるため、行政への一般質問、討論、質疑・意見交換・討議（発言）などで政策提言をしたか。
4. 政策実現評価	一般質問、討論、質疑・意見交換・討議（発言）などで指摘した事項が改善されたか。また、政策提言した事項が実現したか。
5. 自治活動・議会改革取組み評価	議会報告をしているか。地域活動へ参加しているか。町づくりなどへの貢献度どうか。町民ニーズの把握はどうか。

○議員別の評価集計

議員名	杉村志朗		滝川明子		川村明雄		花田 勇		木村 隆		平沼昌平	
項目	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果
○ ほぼ満足	0	1	2	2	7	2	7	5	9	5	8	5
△ 努力が必要	12	7	8	5	6	6	1	3	1	4	10	9
▲ さらに努力が必要	0	4	0	3	0	5	0	0	0	1	0	4
計	12	12	10	10	13	13	8	8	10	10	18	18

議員名	佐藤孝男		熊野茂夫		平野隆雄		溝部幸基		合計	
項目	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果
○ ほぼ満足	7	8	9	7	2	2	5	2	56	39
△ 努力が必要	3	2	0	2	15	15	19	14	75	67
▲ さらに努力が必要	0	0	0	0	3	3	7	15	10	35
計	10	10	9	9	20	20	31	31	141	141

〔分野別の評価種類は、次のとおり省略しています。〕「取組」＝取組の評価 「結果」＝結果の評価

○議員個人としての活動

	川村明雄	花田 勇	熊野茂夫	溝部幸基
報告会等の実施	－	2	2	1
議員だよりの発行	－	－	－	－
個人ホームページの開設	○	－	－	○
その他	－	－	－	－

●議員活動の目標（公約）

選挙公報による公約とともに、適正な議会・議員の役割を果たすために、前年の自己評価による反省点や課題などを翌年の議会・議員活動の目標（公約）として、平成19年から公表しています。

本年度は、全議員（10名）で総数 152項目（昨年度：10名提出 141項目）となりました。

【個人票はP28～P29に掲載しています。】

「議員」の評価結果（個人票）

評価の分類： ○＝「ほぼ満足」 △＝「努力が必要」 ▲＝「さらに努力が必要」

評価期間：平成28年4月～平成29年3月

杉村 志朗 68歳

経済福祉常任委員会委員

議員歴18年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	各町内会の会館の存続・廃止対応	△	▲
	地元企業支援の充実	△	○
財政	町民に負担のない財政の確立	△	△
経済	遊休農地の確認と解消対策の推進	△	△
	地元産業支援の確立	△	△
福祉	住民環境（安心できる）対応	△	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
福祉	障害者支援	△	▲
	高齢化に対応した葬祭費の見直し	△	▲
教育	いじめのない学校管理運営	△	△
その他	将来人口減少対策	△	▲
	岩部地区方面（観光及び崩落石）対策	△	△
	横綱ビーチの有効活用	△	△

滝川 明子 75歳

総務教育常任委員会委員、
議会運営委員会副委員長

議員歴26年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	防災の町づくりの推進	△	△
	男女共同参画の推進	△	△
財政	住宅リフォーム助成を	△	▲
経済	若者雇用の場づくりを中心に定住対策	△	△
	特養ホームの増床	△	▲

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
福祉	ゆとらぎ館の改築	△	▲
教育	いじめを絶対許さない対策推進	△	△
	高校存続対策	△	△
その他	議会基本条例に基づく活動の推進	○	○
	町内会を中心にボランティア活動の推進	○	○

川村 明雄 71歳

総務教育常任委員会委員長、
議会運営委員会委員

議員歴10年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	定住及び少子化対策への政策提言	○	△
	住民が誇れる魅力ある景観等まちづくり提言	○	△
財政	ふるさと応援基金及び財政調整基金の有効活用	△	▲
	町総合計画と将来的安定財源の確保、推進	○	△
経済	空き家の利活用や処理対策の推進	△	▲
	企業支援対策の推進と定住支援環境の整備	△	▲
福祉	少子化対策と子育て支援対策の推進	○	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
福祉	吉岡温泉ゆとらぎ館改修案の提言	△	▲
教育	福島高校存続対策の推進	○	△
	小、中、高一貫教育の考察と提言	△	▲
その他	館崎縄文土器に関するまち興し対策への考察	△	△
	道路等身近な生活環境の改善対策の推進	○	○
	町内会を始めとする各種ボランティア活動の実践	○	○

花田 勇 76歳

経済福祉常任委員会副委員長、
議会運営委員会委員、
渡島西部広域事務組合議会議員

議員歴6年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	町民が何を望んでいるのかよく声を聞きスピード 有る行政で有るよう取組む。	○	○
財政	健全財政を確保して行かなければ健全なる行政運 営は出来ないと考えており、充分な議論をして行 きたい。	○	△
経済	今後も一次産業の活性化のために努力をし増養殖 （水産）を提言し、地場産業として成立するよう に取組みたい。	○	○
福祉	福祉は分野が広く、場当たりの事ではなく長い スパンで何が一番必要なのか自分なりに考え提言 する。	△	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
教育	小中学校の学力向上の推進。高等学校の存続のため 引続き支援策を推進する。	○	△
その他	NPO法人による公共施設の指定管理制度	○	○
	福島町の歴史についての提言	○	○
	各種行事への参加	○	○

木村 隆 37歳

総務教育常任委員会副委員長、
監査委員

議員歴10年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	人財育成政策の利活用	○	△
	道路政策への調査（228線や松前半島道路）	○	○
財政	定例、決算審査をしっかりと行う（監査委員）	○	○
経済	水産被害対策	○	○
	新しい企業応援政策への提言	○	○
	サーモン、あわびの新しい養殖政策に対する研究と提案	○	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
福祉	空き家リフォーム政策	△	▲
	高校存続への働きかけ	○	○
その他	青婦部活動の強化（渡島青連事業への参加）	○	△
	福島会や姉妹町との交流	○	△

平沼昌平 61歳

議会運営委員会委員長、
経済福祉常任委員会委員

議員歴12年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	雇用の場の創出に向けた提言	○	△
財政	効率的な事務事業を検証し、経費節減に対して提言する。	△	△
	後継者育成と定住化促進に向けての提言	△	▲
経済	一次産業に対する施設整備と経営安定化に対する提言	○	△
	町内インフラ整備の充実と保守維持体制の推進に対する提言	○	▲
	高齢者の生活環境の充実とサポート体制の提言	△	○
福祉	在宅介護支援体制の充実と子育て世代の支援体制の提言	△	△
	健康な町づくりに対する保健医療環境の充実した体制づくりの提言	△	△
教育	少子化による学校教育の環境整備と地域環境のあり方について提言	△	△
	社会教育の充実と施設環境の整備に対しての提言	○	○

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
	松前半島高規格道路整備に向けた取組体制の提言	○	○
	有害獣駆除に対する後継者育成支援体制の充実と後継者確保及び事業の広域的（4町）取組の環境整備に対する提言	○	○
	吉岡支所の効率的活用とそれに伴う行政サービスの推進	△	△
	吉岡総合センターの活用と運営に対しての提言	○	○
その他	安心安全な道路網の整備と保全体制の充実に対しての提言	○	△
	漁業の新たな養殖事業や既存養殖事業の環境整備の支援体制の提言	△	△
	隔たりのない公益性の充実のためNPO法人立ち上げに対する提言	△	▲
	水産加工事業に対する支援体制と雇用体制の充実に対しての提言	△	▲

佐藤孝男 70歳

総務教育常任委員、
渡島西部広域事務組合議会議員、
渡島廃棄物処理広域連合議会議員

議員歴22年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	第5次福島町総合計画の注視	○	○
財政	将来を見据えた無駄のない財政健全化の取組み	○	○
	漁業・農業の振興（新規就業者の確保と育成）	○	○
経済	新たな養殖事業（アワビ）推進、既存養殖事業（ナマコ）の検証	△	△
福祉	介護予防医療の推進	△	○

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
	学校給食センターの地場産物利用の強化	○	○
教育	体験学習の実施（食育への取組み）	○	○
	福島商業高校存続の推進	△	△
その他	各種行事の積極的な参加	○	○
	町内会活動の参画	○	○

熊野茂夫 67歳

経済福祉常任委員会委員長、
議会運営委員会委員

議員歴6年

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	「第5次総合計画」の確実な推進のため全力で議会・議員活動をいたします。	○	○
財政	将来を見据えた予算編成への諸提言をし、町財政の健全な運営への取組みをいたします。	○	○
経済	「養殖事業」の安定と発展のための諸提言をいたします。	○	○
	実行性のある農林業計画への提言をします。	○	△
福祉	高齢者が利用しやすい公共施設の改修・整備への諸提言をいたします。	○	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
福祉	国民健康保険・介護保険会計の健全財政運営への諸提言をいたします。	○	○
教育	教育環境の再編と充実のため施策提言をいたします。	○	○
	「福島商業高校」の存続のため全力で取り組みます。	○	○
その他	生活環境改善への提言	○	○

平野 隆雄 68歳

副議長、広報・広聴常任委員会委員長、
総務教育常任委員会委員、経済福祉常任委員会委員、議員歴21年
渡島廃棄物処理広域連合協議会議員

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	町基盤産業の支援、町内景気の活性化	▲	▲
	自然環境保全、汚染防止対策	△	△
	各公共施設の管理運営	△	△
	松前半島高規格道路推進	▲	▲
財政	福島川改修事業の推進	△	△
	町施設の利用促進、円滑な管理運営	△	△
経済	養殖事業の新たなブランド化の促進（ホッケ、油子（アイナメ）等）	▲	▲
	町内起業家の育成、支援対策	△	△
	町内各産業の新たなブランド開発推進	△	△
	インターネット活用販売促進	△	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
教育	高齢化等における水産加工場への対応	△	○
	町内特産物のブランド化の促進	△	△
	健康な町づくりの推進・医療費助成	△	○
	給食を通じた食育と地産地消促進	△	△
その他	少子化の中の教育行政の見直し	△	△
	学芸員の配置	○	○
	福島商業高等学校存続対策強化促進	△	△
	学校における相撲の推進	△	△
その他	吉岡温泉の円滑な管理運営	○	○
	横綱ビーチの利用促進	△	△

溝部 幸基 69歳

議長（渡島西部広域事務組合協議会議長）、
総務教育常任委員会委員、議員歴37年
経済福祉常任委員会委員

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
行政	「両基本条例」の目的達成に向けた活動推進（各種計画に関する提言・検証）	△	△
	自律、協働の「小規模多機能自治」に関する調査研修	△	▲
	「行政と連動するNPO」に関する調査研修	△	▲
	行政サービスの効率的な運営への提言（外部委託・時間差出勤・研修等）	△	▲
	防災対策の提言（災害弱者・訓練・冬季対策等・危機管理に関する研修）	△	▲
	「平和の町宣言」に関する調査研修（埼玉県杉戸町視察研修）	○	△
	浄化槽（下水道整備）の普及推進	▲	▲
財政	財政健全化への取組み（予算・決算審査・行政評価充実・基金の有効活動）	○	△
	退職手当制度の抜本的改善	▲	▲
経済	新しい仕事の創出（起業）に挑戦できる支援システムの創設	△	△
	異業種連携による「福島ブランド」の開発	△	▲
	地場産品の6次産業化に関する調査研修	△	△
	産業団体と課題に取組む産業公社の仕組みづくりの調査研修	△	△
	地産地消、食育、環境リサイクルで「自律循環型の町づくり」の研修	△	▲
	過疎自治体における超高齢化対策に関する調査研修	△	△
福祉	「健康な町づくり」（全町的な取組）で医療費の削減	▲	▲

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	結果
福祉	予防医療の推進	▲	▲
	在宅介護支援体制の整備	△	▲
教育	小中学校一貫教育、コミュニティースクールに関する調査研修（青森県三戸町視察研修）	○	△
	子どもや高齢者が積極的に参加する幅広い生涯学習の推進	▲	▲
	「子育て基本条例」制定に向けた取組み（情報収集・研修）	▲	▲
	「自分（達）ですべき事は自分（達）でする」主体性をもった自治活動の推進	△	▲
	食育・地産地消の推進（「食育基本計画」→情報周知・実践計画・研修）	△	△
	わかりやすく、町民が参加出来る議会の実現（議会基本条例の周知）	△	△
その他	活発な討議（討論）ができる議会の実現	△	△
	政策的な提案のできる議会の実現	△	△
	町議会議員選挙への供託金制度導入	▲	▲
	幅広い情報収集、積極的な研修参加	△	△
	視察の積極的な受け入れ（志賀町・長泉町・高山市・宮城県北議会議員会・岩手県議長会・八郎湯町他計10団体107名：2市30町村）	○	○
	ホームページの充実（提案、情報発信、参加型）	△	△
	各種行事、研修への積極的な参加（活動実日数273日）	○	○

議会ホームページ

平成28年3月より議会ホームページをリニューアルしています。
議会の予定や、会議資料（議案や一般質問等）・映像、会議録、議会だよりなどを見ることが出来ますので、下記のURLからアクセスしてください。

○議会ホームページ <http://www.gikai-fukushima-hokkaido.jp/>

（リンク先：福島町ホームページ）

福島町HP <http://www.town.fukushima.hokkaido.jp/>



議員活動の目標（公約）（個人票）

目標期間：平成29年4月～平成30年3月

〔杉村 志朗〕

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	各町内会の会館の存続・廃止対応 吉岡総合センターの管理運営状況
財 政	安心して暮らせる財政の確立
経 済	地元産業の支援
福 祉	住民環境の充実 高齢化に対応した葬祭費の改善
教 育	社会教育施設の環境見直し いじめのない学校運営
その他	横綱ピーチの促進と活用 岩部地区方面（通行止）対策 将来人口減少対策

〔滝川 明子〕

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	防災の町づくりの推進 男女平等参画の推進
財 政	住宅リフォーム助成を
経 済	若者雇用の場づくりを中心に定住対策 B級グルメの福島ブランドを
福 祉	ゆとらき館の改築 利用しやすい介護保険制度の推進
教 育	いじめを絶対に許さない対策推進 高校存続対策
その他	議会基本条例に基づく活動の推進 町内会を中心にボランティア活動の推進

〔川村 明雄〕

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	定住及び少子化対策への政策提言 住民が誇れる魅力あるまちづくりの考察と提言 町内の国道改良及び第二の青函トンネル構想推進
財 政	ふるさと応援基金及び財政調整基金の有効活用 町総合計画と将来的安定財源の確保、推進
経 済	空き家利活用の考察と提言 起業支援対策の推進と定住対策課題の考察
福 祉	少子化対策と子育て支援対策の推進 吉岡温泉ゆとらき館改修案の提言 医療対策の充実確保
教 育	福島高校存続対策の推進及び中高一貫教育の考察 学校教員の労働加重問題への考察、検討 町民プールの活用拡大と考察、提言
その他	館崎縄文土器に関するまち興し対策への考察 身近な生活環境の改善対策の推進 南北海道駅伝競走大会の将来的堅持 町内会を始めとする各種ボランティア活動の実践 松前半島道路計画の推進 原子力発電からクリーンエネルギー社会への考察

〔花田 勇〕

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	地元産業の活性化に向けた推進 小中一貫校に対する提言 福島町の歴史文化の活性化提言
財 政	財政健全化に対する提言 福祉分野の財源に対する努力
経 済	陸上養殖アワビの増産に努力 福島町まちづくり工房の推進 間引昆布のさらなる利用推進
福 祉	高齢化が進む中で利用者が一番何を望むのかをよく考えて行きたい。
教 育	少子化の中で小中学校がこのままで良いのかをテーマに取り組みたい。
その他	誹謗中傷の無い町づくり 各種行事への参加 町民と議員との懇談会にもっと多く町民が参加出来るように努力

〔木村 隆〕

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	指定管理者政策の注視 伊能忠敬公園のあり方
経 済	間引き昆布のさらなる活用に向けた情報収集 外国人研修生・国の動向や調査活動 あわび事業の本格稼働に向けた注視
福 祉	子育て政策（子育て住宅）への提言 介護政策、国保広域化への提言
教 育	吉岡小の在り方の方向性確立 タブレット教育への提言
その他	消防団活動の推進（全道大会）

〔佐藤 孝男〕

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	第5次総合計画の推進、ローリングへのチェック
財 政	将来を見据えた無駄のない財政健全化に取組みます
経 済	漁業・農業者（新規就業者の確保）の育成 新たな養殖アワビ推進、養殖施設の推進、ナマコ放流の検証
福 祉	介護予防医療の推進 福島商業高校の存続の推進
教 育	学校給食センターの地場産物利用の強化 体験学習の実施、食育への取組み
その他	各種行事の積極的な参加 町内会活動の参画

〔 平 沼 昌 平 〕

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	雇用の場の創出に向けた提言
財 政	効率的な事務事業を検証し、経費削減に対して提言する。
経 済	後継者育成と定住化促進に向けての提言
	一次産業に対する施設整備と経営安定化に対する提言
	町内インフラ整備の充実と保守維持体制の推進に対する提言
福 祉	高齢者の生活環境の充実とサポート体制の提言
	健康な町づくりに対する保健医療環境の充実した体制づくりの提言
教 育	少子化による学校教育の環境整備と地域環境の在り方について提言

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
教 育	社会教育の充実と施設環境の整備に対しての提言
その他	松前半島高規格道路整備に向けた取組体制の提言
	有害獣駆除に対する後継者育成支援体制の充実と後継者確保及び事業の広域的（4町）取組の環境整備に対する提言
	吉岡総合センターの活用と運営に対しての提言
	安心安全な道路網の整備と保全体制の充実に対しての提言
	漁業の新たな養殖事業や既存養殖事業の環境整備の支援体制の提言
	水産加工事業に対する支援体制と雇用体制の充実に対しての提言

〔 熊 野 茂 夫 〕

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	「養殖事業」の確実な推進とその検証
財 政	各公共施設の再整備と改修への諸提言
	財政の健全化への取組み
	将来を見据えた予算編成への諸提言
経 済	過去の諸施策を財政的視点より検証をいたします。
	「養殖事業」の安定と発展のための諸提言
	農林業への実効性のある諸提言

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
福 祉	高齢者が利用しやすい公共施設の改修・整備への諸提言をいたします。
教 育	国民健康保険・介護保険会計の健全な財政経営への諸提言
	学校教育環境の充実のため施策提言をいたします。
その他	社会教育への諸施策の提言をいたします。
	生活環境改善への提言

〔 平 野 隆 雄 〕

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	町基盤産業の支援・町内景気の活性化
	自然環境保全・汚染防止対策
	各公共施設の管理運営
	松前半島高規格道路推進
財 政	福島川改修事業の推進
	町施設の利用促進・円滑な管理運営
経 済	養殖コンブ製品増の提言
	町内起業家の育成、支援対策
	町内各産業の新たなブランド開発推進
	インターネット活用販売促進

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	高齢化等における水産加工場への対応
福 祉	町内特産品のブランド化の促進
	健康な町づくりの推進・医療費助成
教 育	給食を通じた食育と地産地消促進
	少子化の中の教育行政の見直し
	学芸員の配置、縄文土器等による町づくり
その他	福島商業高等学校存続対策強化推進維持
	学校における相撲の推進
	吉岡温泉の円滑な管理運営

〔 溝 部 幸 基 〕

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	「両基本条例」の目的達成に向けた活動推進（各種計画に関する提言・検証）
	自律、協働の「小規模多機能自治」に関する調査研修
	「公契約条例」に関する調査研修
	行政サービスの効率的な運営への提言（外部委託・時間差出勤・研修等）
	防災対策の提言（災害弱者・訓練・冬季対策等・危機管理に関する研修）
	「平和の町宣言」に関する調査研修
	浄化槽（下水道整備）の普及推進
財 政	財政健全化への取り組み（予算・決算審査・行政評価充実・基金の有効活動）
	退職手当制度の抜本的改善
経 済	新しい仕事の創出（起業）に挑戦できる支援システムの創設
	異業種連携による「福島ブランド」の開発
	地場産品の6次産業化に関する調査研修
	産業団体と課題に取組む産業公社的仕組みづくりの調査研修
	地産地消、食育、環境リサイクルで「自律循環型の町づくり」の研修

分 野	具 体 的 な 目 標 項 目
福 祉	過疎自治体における超高齢化対策に関する調査研修
	「健康な町づくり」（全町的な取組）で医療費の節減
	予防医療の推進
教 育	在宅介護支援体制の整備
	小中学校一貫教育、コミュニティースクールに関する調査研修
	過疎自治体における高等教育推進に関する調査研修
	「子育て基本条例」制定に向けた取組み（情報収集・研修）
	「自分（達）ですべき事は自分（達）でする」主体性をもった自治活動の推進
	食育・地産地消の推進（「食育基本計画」→情報周知・実践計画・研修）
その他	わかりやすく、町民が参加出来る議会の実現（議会基本条例の周知）
	活発な討議（討論）ができる議会の実現
	政策的な提案のできる議会の実現
	町議会議員選挙への供託金制度導入
	幅広い情報収集、積極的な研修参加
	視察の積極的な受け入れ
	ホームページの充実（提案、情報発信、参加型）
	各種行事、研修への積極的な参加

◆会議等出席状況◆

会議や議会へ通知があった行事等の2月から5月までの出席状況をお知らせします。

「○」は出席、「×」は欠席・病欠、「－」は出席不要・任意、「◎」は委員外議員として出席、「△」は別公務のため欠席、「職」は正副議長の職務出席を表しています。

年 月 日	会 議 ・ 行 事 名	杉 村	滝 川	川 村	花 田	木 村	平 沼	佐 藤	熊 野	平 野	溝 部
H29. 2. 2	町民懇談会（町内3会場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 3	町民懇談会（町内3会場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 4	町内会連合会 総会	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○
2. 6	町民懇談会（町内3会場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 7	町民懇談会（町内3会場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 9	渡島廃棄物処理広域連合第1回定例議会・全員協議会	－	－	－	－	－	－	○	－	○	－
2. 9	(株)ヤマザキ及び福島吉岡漁業協同組合並びに福島町との昆布プロジェクト事業化に向けた合意書の調印式	○	○	×	○	○	×	○	○	△	○
2. 13	町民懇談会（町内3会場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 14	町民懇談会（町内3会場）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 16	福島町農業協同組合通常総会	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○
2. 16	渡島町村議会議長会総会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
2. 17	経済福祉常任委員会（学童保育ほか）	○	－	－	×	－	○	－	○	○	○
2. 20	渡島西部四町議会議員連絡協議会 定期総会・研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 22	総務教育常任委員会 （第2次福島町まちづくり行財政推進プランの変更について）	－	○	○	－	△	－	○	－	○	○
2. 23	福島町コミュニティスクール指定に向けた研修会	×	○	○	○	△	×	○	×	×	○
2. 23	スポーツ・文化賞表彰式	×	○	○	○	△	×	○	×	×	○
2. 24	渡島西部広域事務組合第1回定例議会	－	－	－	○	－	－	○	－	－	○
2. 27	福島町森林組合通常総会	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○
2. 27	福島町自衛隊父兄会総会及び自衛隊入隊者激励会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
3. 1	福島商業高等学校卒業式	－	○	○	○	○	－	○	○	－	○
3. 2	議会運営委員会（定例会3月会議の運営ほか）	－	○	○	○	－	○	－	○	職	職
3. 3	2/17 経済福祉常任委員会意見書の手交	－	－	－	－	－	－	－	○	○	○
3. 3	2/22 総務教育常任委員会意見書の手交	－	－	○	－	－	－	－	－	○	○
3. 10	定例会3月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3. 13	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	職
3. 14	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	職
3. 15	福島中学校卒業式	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3. 15	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	職
3. 16	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	職
3. 17	吉岡小学校卒業式	－	－	○	－	○	○	○	－	○	－
3. 17	福島小学校卒業式	－	○	－	○	－	－	－	○	－	○
3. 17	定例会3月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3. 17	議会運営委員会（定例会3月会議の反省事項ほか）	－	○	○	○	－	○	－	○	職	職

年 月 日	会 議 ・ 行 事 名	杉 村	滝 川	川 村	花 田	木 村	平 沼	佐 藤	熊 野	平 野	溝 部
H29. 3. 22	福島幼稚園保育証書授与式	—	○	○	—	—	—	—	—	—	○
3. 27	福島町椎茸生産組合定期総会	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
3. 28	認定こども園福島保育所卒園式	—	○	○	○	○	—	○	○	—	○
3. 31	福島吉岡漁業協同組合 通常総会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
3. 31	福島町観光協会 通常総会	—	—	—	—	○	—	○	—	—	○
3. 31	3/17 議会運営委員会反省事項の手交	—	—	—	—	—	○	—	—	○	○
4. 3	子育て支援センター竣工式	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
4. 5	認定こども園福島保育所入園式	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×
4. 6	吉岡小学校入学式	—	—	—	—	○	○	○	—	○	○
4. 6	福島小学校入学式	—	○	○	○	—	—	—	○	—	—
4. 6	福島中学校入学式	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
4. 6	春の交通安全大会・祈願祭	—	—	—	—	○	○	—	—	○	—
4. 7	福島町商工会青年部通常総会	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○
4. 10	福島商業高等学校入学式	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
4. 11	福島幼稚園入園式	×	○	○	×	×	×	×	×	○	△
4. 11	函館新聞創刊20周年記念式典	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
4. 17	前田代議士と水産加工業者との意見交換会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
4. 22	北海道福島会（東京都）	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
4. 21	議会運営委員会（議会評価ほか）	—	○	○	○	—	○	—	○	○	○
4. 25	広報広聴常任委員会（スポーツ団体との懇談）	—	○	○	—	×	—	○	—	○	○
4. 26	渡島町村議会議長会臨時総会（函館市）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
4. 27	渡島西部四町議会議員連絡協議会 第1回理事会	—	—	—	—	×	×	—	—	○	○
4. 28	総務教育常任委員会 （国道228号線の改良についてほか）	◎	○	○	—	○	—	○	◎	○	○
5. 2	福島町コミュニティ運動推進協議会 総会	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○
5. 10	渡島総合開発期成会役員会（函館市）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
5. 10	函館地方法人会福島支部総会	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
5. 13	森づくり協議会ほか記念植樹	—	—	○	—	—	—	○	○	—	—
5. 14	北海道女だけの相撲大会	—	—	○	—	○	—	—	—	—	○
5. 18	交通安全運動推進協議会総会	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
5. 18	福島町商工会 総会	○	—	—	—	○	—	○	—	○	—
5. 19	経済福祉常任委員会（福島版営農モデルほか）	○	—	—	○	—	○	—	○	○	○
5. 21	福島中学校体育大会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
5. 22	渡島総合開発期成会定期総会（函館市）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
5. 22	福島町議会基本条例諮問会議	—	—	—	—	—	○	—	—	○	○
5. 23	議会運営委員会 （定例会5月会議の運営・議会だより編集ほか）	—	○	○	○	—	○	—	○	職	職
5. 24	福島町老人クラブ連合会総会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
5. 25	定例会5月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5. 26	渡島西部広域事務組合臨時会	—	—	—	○	—	—	○	—	—	○
5. 31	町村議会議長・副議長研修会（東京都）	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—

31 福島町議会だより

— 第113号 平成29年6月1日発行 —

町民の声

この町が好き！



一般社団法人 福島町
まちづくり工房
主任 平野 松寿さん

昨年12月より福島町まちづくり工房の職員として勤務させて頂いております。3年程前に福島町に帰郷。現在35歳です。

福島中卒業と同時に町を出た事を考えると、人生の半分は他の土地で暮らしている事になります。

それでも現在、福島町に住み、この町が好きだと思えるのは、生まれ育った環境である事だけではなく、長年、福島町を俯瞰し続けてきた上で、自分自身がこの町に帰ろうと決めた事が大きいと感じております。今の仕事は、これまで経験してきた業種とは異なり、全く不慣れな中で奮闘しておりますが、やりがいを感じている事が多く、自分自身が成長する事で、いつの日か過去の経験をリンクさせ、福島町に反映させていく事が可能でないと、勝手ながら考えております。

これからは福島で暮らした期間の方が長くなっていく事を実感しながら日々、己の成長と、福島町の未来の為に業務に励みたいと思う今日この頃です。

議員の雑感

新規就農者に期待！



総務教育常任委員
佐藤 孝男

今年は雪も少なく、春も早いだろうと思っていたが、気温も上がらず、ようやく役場庁舎前の桜が開花しました。

福島で一歩早く咲くのでは、桜が咲いただけでなぜか心が弾みます。農作業も天候不順で遅れがち、毎日の天気予報を気にしています。

米農家のほとんどが、種もみまきも終わりました。23日は黒米の種まきを実施しました。

今回のメンバーは、新規就農者、新しく担い手となる方、今後福島へ定住する方が応援に、3時間ほどで終わりました。もみまきの一連の作業というものは、もみの発芽から始まり、もみまき機械の調整など多くの仕事があります。一カ月後、田植が始まります。研修を積んで立派な農業者になつて下さい。今年は豊作でありますように。



北方領土返還要求運動シンボル
「千島桜」

議会の主な会議予定 6月

※変更・追加となる場合もあります。

20日(火)～21日(水) 定例会 6月会議 午前10時～ 議場

12日(月) 議会運営委員会 午後3時～ 委員会室
〔定例会6月会議の運営ほか〕

編集後記



新年度も早や2カ月が過ぎ、新社会人や新入学生には戸惑いの日々が続く。新緑も色濃くなった山々を眺め新鮮な空気を胸いっぱい吸って心のリフレッシュ。頑張りすぎないように日々、適度に奮闘を。

農家の皆さんは、畑の種まき、田植えも終え、ホッと一息。

浜では、昨年、低気圧で甚大な被害を受けた養殖昆布も今年は順調に生育。(株)ヤマザキの現地法人「(株)北海シーウインド」もフル稼働。

新しい産業の息吹を感じます。

6月は、イカ漁が解禁。大漁を期待。福島名物、朝の「イカイカ」を聞きたいですね。

今回は、3月会議を中心とした「議会だより第113号」をお届けしました。